

港中だより

伊勢市立港中学校 No.16

R2. 10. 12

校長 金森 晃生

令和2年度 後期開始!!

今日(12日)から後期の教育課程が開始しました。文化祭までは、教科によって授業で作品の製作や校外学習や修学旅行の新聞づくりなどを行います。また、クラス毎に合唱練習も行います。今年度は感染症予防対策のため、文化祭、文化祭にともなう準備なども例年とは異なりますが制限された中でできることを考え、しっかり取り組んでほしいと思います。

さて、9日に前期の終業式を行いました。式の中で2つのことを話しました。

1つ目は学習に関することです。9日にこれまで前期の学習の取り組みを評価した「通知表」を渡しました。評価は5段階(数字の5から1)の評定とⒶABⒸCの5段階に分かれた観点別評価があります。評定は各評価の総合した評価です。観点別評価はいくつかの観点(例えば、興味関心など)を評価したものです。評定をよくするには、観点別評価をよりⒶに近づけることです。そのためには、6月にみなさんに配布した、各教科の「学習の進め方」をしっかりと見てください。その中には、どのような授業(教科書の単元など)をいつ(時期)行うのか、どのようなことを評価しているのか(それぞれの観点で大切にしてほしいこと)が記されています。今回の通知表と見比べて、前期頑張ったところ、これから努力が必要なところを確認して後期の学習につなげてください。評価についてわからないことがあれば、教科の担当の先生に相談してください。ただし、基本は授業です。授業中、勝手なことをしていたり、集中していなかったり、まして関係ないことをしゃべっていたりしているのはもってのほかです。自分の力にならないだけでなく、時には他の人の邪魔をすることになります。そんなことになれば、評価以前の問題です。目標を持って、これからもしっかり学習に取り組みましょう。

2つ目は「思いやりの心」を意識してください、と話しました。これまでも「思いやりの心」については話をしてきましたが、今年度はみなさんが集まる機会が少なく、意識することが薄れてきたように感じています。今年度は学校が臨時休校になり、5月末からスタートしましたが、マスク着用、人との距離、手洗いの徹底などこれまでにない生活が続いています。みなさんも何となく窮屈な感じで生活しているのではないのでしょうか。それとも、もう感染症対策に慣れましたか。感染症の拡大はまだ収まっていません。これからも引き続き感染症対策を行っていくことが必要です。その中で、最近では感染した人や、医療従事者への心ない差別、根拠のない話を広めるなど、社会の中でも「思いやりの心」が忘れられているのではないかと感じています。ほんの少し周りの人の気持ちを考えることや自分に置き換えることができれば、もっとみんなが嫌な気持ちを持たずに生活できると思います。今回の感染症のことだけでなく、みなさんの中にも知らぬ間にSNSに悪口を書かれたり、デマを流されたりしたことはありませんか。同じことです。自分が嫌なことは他の人も嫌だと感じる人が多いのではないのでしょうか。相手の気持ちを考え、「思いやる気持ち」を持てば、きっとそんなことはなくなると思います。私は、『思いやりの心を持って、みんなが安心して楽しく登校できる学校』を目指しています。ぜひこれからも今以上に「思いやりの心」を意識して行動してほしいと思います。

後期も一人ひとりが学習や生活や部活動などいろいろなことに目標を持ち、達成できるように計画を立て実行してください。みなさんのさらなる向上心と努力を、大いに期待しています。

